



兵庫県

第4回トラスト地ツアー 広葉樹の森づくりを体験!
 宍粟市波賀町戸倉トラスト地 5月26-27日 開催

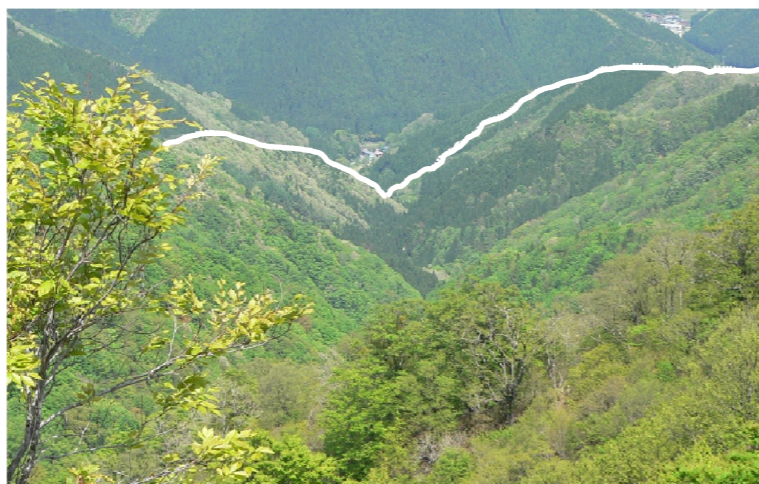


植樹地の中で集合写真

第4回目のトラスト地ツアーは、兵庫県宍粟市波賀町にある戸倉トラスト地（120ha）で開催。

ツアー1日目は、トラスト地の全景が見える赤谷山の山頂まで往復約3時間の登山をしました。頂上まで登ると、淡い黄緑色で覆われた山々が目下に広がっており、みずみずしい新緑の季節を実感しました。

2日目は、広葉樹林復元の現場を案内。長年地元で広葉樹林復元に取り組んでおられる原観光りんご園を案内しました。トラスト地内の人工林伐採跡地は兵庫県の補助金で広葉樹林化していく予定で、その施業地も見学しました。最後には、トラスト地内で記念植樹も行いました。



赤谷山山頂からのトラスト地全景（白線より手前が戸倉トラスト地）

＜参加者の皆さんの声＞

- ・自然林と人工林を見比べながら歩くことができてよかった
- ・（記念植樹をして）実際に森づくり体験ができてよかった
- ・もっとトラスト地を増やしていくべきだと思った

戸倉トラスト地での研究 奥山学会誌に掲載

戸倉トラスト地で行われている2つの調査が、今年の6月に発行された日本奥山学会誌Vol 6(1) 2018に掲載されました。

戸倉トラスト地内に設置した自動撮影カメラの映像を分析した「兵庫県宍粟市『戸倉トラスト地』におけるツキノワグマの生態調査」（家田俊平・当財団職員）では、奥山の中のツキノワグマの生態が報告されています。

「寒冷、豪雪地における、防鹿柵による植生回復について—兵庫県宍粟市波賀町戸倉での例—」（水見竜也・（一財）日本熊森協会研究員）では、戸倉トラスト地でのシカよけ柵を設置し、広葉樹を植樹した後の植生回復を調査しています。鳥類など野生動物が多様な植生を形成するのに重要な役割を担っていることが明らかになりました。

今後も調査内容を日本奥山学会などで発表していく予定です。

学会誌（800円）をご購入希望の方は
 日本奥山学会事務局まで
 (TEL 0798-22-4190)

土地取得・トラスト地管理資金
 等にご協力ください

・ゆうちょ銀行振替口座 00920-4-305993
 (口座名) 公益財団法人 奥山保全トラスト



トラストだより



石川県



2018年7月4日撮影

7月1日のクマの皮ハギ調査後、自動撮影カメラを初めてかけたところ、写ったクマ（石川県白山トラスト地）

九州で2か所の新トラスト地が誕生！保有山林は2028haに

理事長 米田 真理子

夏の厳しい暑さが過ぎ、実りの秋を迎えました。この夏は、地震や豪雨、台風によりたくさんの災害が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

熊本県と宮崎県の2か所で、新しいトラスト地が誕生しました。人工林が延々と続き、その多くが放置され内部が荒廃している姿を目の当たりにし、九州でさらにトラスト地を持ちたいという思いを強くしてきました。

九州では気候の影響もあり、伐採跡地を放置しておけば、天然林が再生します。人工林率の高い九州で、奥山の水源域や林業に適さない場所は、「スギ・ヒノキの伐採跡地を天然林へ戻していく」という流れをつくっていきたいです。

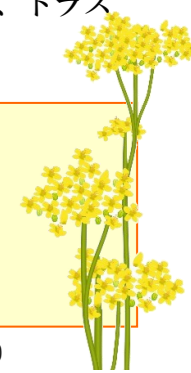
今回のトラストも相続財産からの寄付等、豊かな森を守りたいというみなさまからのご寄付により実現しました。心から感謝申し上げます。

2つのトラスト地を取得したことで、当財団の保有する森林は、2000haを超えました。たくさんの方のみなさまの熱い思いとご支援により、豊かな水源の森の保全が実現していることを忘れず、トラスト運動を全国で広げていきます。

クレジットカードで会費・ご寄附のお振込みができるようになりました！

ホームページから
 お願いします。

会費：<http://okuyamatrust.org/donation/nyukai>
 ご寄附：<http://okuyamatrust.org/donation/kifu>



大人工林地帯

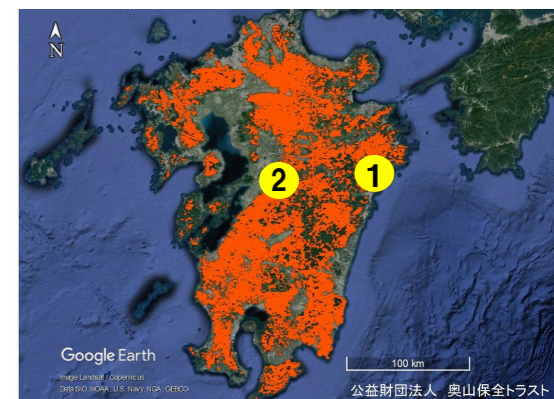
九州の水源地を2か所購入！

九州は、全国の中でも特に人工林率の高い地域です。昨年の北九州豪雨災害のように、近年は人工林の土砂災害が多発しています。私たちは、人工林が多い九州でこそ、天然林を守り、再生していく、奥山保全トラスの運動を広げたいと2年がかりで、トラス候補地を探してきました。

この夏、その九州で宮崎県延岡市の北川町と、熊本県上益城郡の山都町での山林のトラスに成功しました。

1 宮崎県北川町トラス地

2 熊本県上益城郡山都町トラス地



九州の人工林地帯 オレンジ色が人工林部分

宮崎県

延岡市 北川町トラス地 10ha



クヌギ林が広がる北川町トラス地

小川で水遊び

奇跡の清流「小川（こがわ）」源流の広葉樹林

北川町トラス地は3haと7haの2か所に分かれ、両方とも40年ほど前にクヌギを植林した場所です。現在は照葉樹の下層植生が生えてきており、このままの状態を残していくことでクヌギと照葉樹が混交する立派な天然林に遷移していくと考えられます。

このトラス地は、1級河川五ヶ瀬川の上流にあり、高い透明度から「奇跡の清流」と呼ばれる小川（こがわ）の源流に位置します。源流域に広葉樹林が残っているため、豊富な水量と、雨でも濁らない美しい流れが守られています。



熊本県

上益城郡 山都町トラス地 31ha



山都町トラス地全景

奥山の伐採跡地は天然林に再生を

トラス地のうち、24haはスギの人工林を皆伐した跡地で、残り7haは40～50年生のシイやカシの照葉樹林です。1級河川である緑川の源流となっており、現地を訪れた時、豊かな森に生息するアカショウビンの鳴き声も聞こえました。

人工林の伐採、伐採後のスギの再生林が進む九州で、奥山や水源域や林業に向かない場所は、スギを植えるのではなく、災害に強い天然林に戻していくという運動を広めたいという思いで取得しました。

植えない豊かな森づくり

温暖湿潤な九州では、植物の成長が早く、皆伐地を放置しているだけで天然林が再生します。

山都町（やまとちょう）トラス地の伐採跡地には、もうすでに広葉樹が5mほどまで成長しています。

今後は熊本県在住のみなさんにご協力いただき、天然林の再生の状況を調査していきたいです。

報道各社も注目

8月27日、宮崎県庁、熊本県庁で記者会見を開き、次世代に豊かな水源の森を残す重要性を訴えました。

九州では土砂災害がたくさん起こっているから、たくさんのマスコミが取材をしてくださり、様々な質問を受けました。

北川の山林寄付金で購入
兵衛の団体 自然林再生を目指す
寄付金を山を買い取り、自然林として残す活動をしている自然保護団体・奥山保全トラス（兵庫県）は27日、延岡市北川町内名の山林10haを購入したと発表した。今後はできるだけ手を加えず、多様な木々が残る山への再生を目指す。
高千穂町の山林に続き県内2例目。今回の山林は北川の支流・小川の源流も流れる場所にあり、約40年前にクヌギが植林されたものの手入れされず、自然林に戻りつつあるという。今後はバイオマス燃料などとして乱伐される恐れもあるため、22日に個人所有者から購入した。
奥山保全トラスの奥谷悠子理事は27日、県庁で記者会見し「地形の問題などで採算が含まない山を自然林に戻すことは、自然保護や災害予防だけでなく林業の効率化にもつながる」と話した。
同団体は2006年から山林保護活動を展開。同日発表分も含め、10府県15カ所の山林計2027haを購入してきた。資金は全国からの寄付金で賄っており、これまでに4億円以上が寄せられている。
(海老原 啓)



宮崎県庁記者会見



室谷悠子理事 熊本県支援者 上田量章氏